

京都市京セラ美術館 開館一周年記念展「上村松園」開催概要

1 開催趣旨

京都市京セラ美術館では、開館一周年記念となる自主企画展として、近代の京都画壇を代表する日本画家である上村松園（1875～1949）の回顧個展を開催することになりました。

当館の所蔵する上村松園コレクションは、初期の代表作である《人生の花》（1899年）から大正期の第7回帝展出品作《待月》（1926年）、昭和戦前期の《晴日》（1941年）、絶筆《初夏の夕》（1949年）まで、総計10点を数えます。

近代の京都画壇の日本画コレクションを誇る美術館としても、上村松園はとくに重要な作家に位置づけられます。

上村松園の個展としては、当館の80年を超える歴史において、半世紀ほど前の1974年に「生誕100年記念 上村松園」展を開催しています。この展覧会では、ご子息である日本画家の上村松篁氏と京都国立近代美術館の初代館長である河北倫明氏の監修により代表作49点が出品されました。

二度目となる今回の展覧会では、全国の美術館をはじめ個人所蔵家の方々の協力を得て、前回の出品作品を踏まえて、最初期から絶筆までの代表的な作品（約100点）を集めて、近代の京都画壇が生んだ不世出の女性画家である上村松園の芸術の全貌を紹介するものです。

2 開催概要

会 場 京都市京セラ美術館 北回廊1階

会 期 2021年7月17日（土）～9月12日（日）[51日]

前期：7月17日（土）～8月15日（日）[27日]

後期：8月17日（火）～9月12日（日）[24日]

3 展覧会構成（案）

第1章	古画と写生（1887～1902）	15点
第2章	美人画の探究（1903～1913）	20点
第3章	女性像の模索（1914～1925）	20点
第4章	松園様式の完成（1926～1938）	35点
第5章	画業の円熟（1939～1949）	20点
総計		100点